制での面会を再開し、外部の方との直接的な接触を避けるためにガラス越しで面会できるよう専用スペースを設けて対応しています。

▲お孫さんと久しぶりの会話を楽しむ

また、マイクとスピーカーを設置してガラス越しでも会話ができるように工夫しています。再開後はたくさんのご家族の方が来られています。

家族と入居者からは、

・元気な姿が見られて安心した

・どこにウイルスが潜んでいるかわからない状況下で誰もが持ち込んでしまう可能性もある中、接触がないので安心

・ガラス越しと聞いて会話はできないと思って来たらマイクとスピーカーがあり良かった

・耳が遠いからスピーカーがあっても聞こえにくいが顔が見られた

・ガラスに違和感があったが会うことができて嬉しかった

・マイクを使ってしゃべるのが難しかった

・ひ孫に会えたからよかった、でも握手くらいしたかった

などの感想が聞かれました。

▲お孫さん、ひ孫さんと一緒に

良い面も悪い面もあるようですが、家族や入居者の気持ちに寄り添い、その時々の状況に沿った柔軟な対応をしています。

今後も面会を制限する状況が続きますが、ご理解をお願いします。

介護主任より

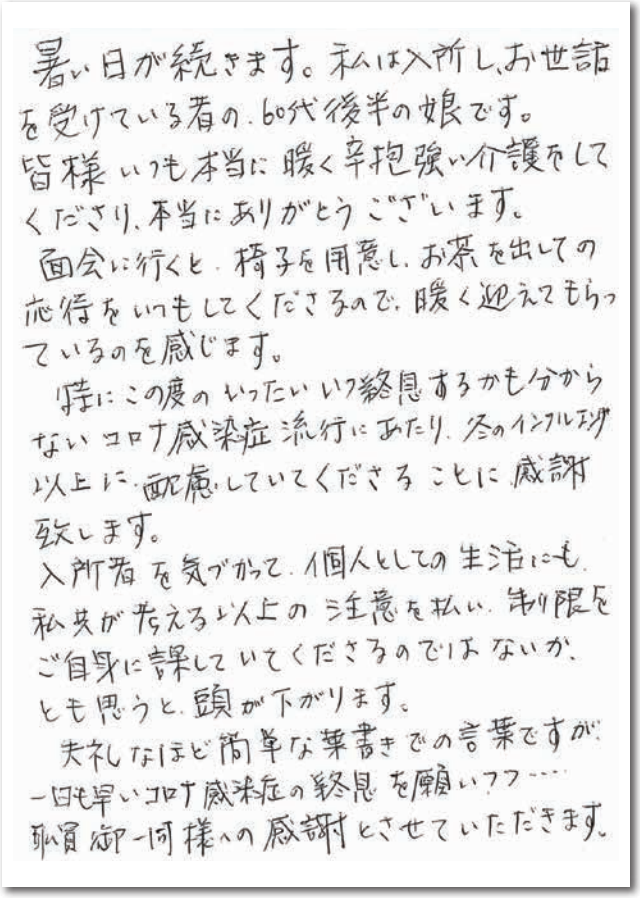
施設サービス計画の見直しをする会議についても当面の間、家族の参加はない状態でおこなっています。

その代わりに計画書の説明と共に入居者の現在の状況を電話でお伝えしています。また、家族には担当から1～3か月ごとに日々の様子を記した手紙を送付しています。なかなか収束せず落ち着かない現状に不安な気持ちを話される家族もあります。また、入居者からは「まだ息子に会えんかね？」「早く家族に会いたい」との声も聞かれます。

家族と会えないことは多くの入居者にとってストレスとなります。そういった際には思いに共感しながら安心していただけるように接しています。

楽しみにしていた行事や外出が中止になり、家族や共に暮らす人との接触が制限され利用者の生活は大きく変わりました。社会の閉塞感や不安感は認知症の方にも伝わります。スキンシップの機会は減りましたが、畑の野菜を収穫したり近所を散歩したりして気分転換を図り穏やかに過ごしていただけるよう支援しています。

新型コロナウイルス感染症の収束は、まだまだ先が見えない状況です。利用者の日常を守りながら、再び利用者と家族が安心して会える日が来ることを信じて、私たちは今後も感染予防に努めていきます。


暑い日が続きます。私は入所し、お世話を受けている者の、60代後半の娘です。
皆様いつも本当に暖く辛抱強い介護をしてくださり、本当にありがとうございます。
面会に行くと、椅子を用意し、お茶を出しての応待をいつもしてくださるので、暖く迎えてもらっているのを感じます。
特にこの度のいったいいつ終息するかも分からないコロナ感染症流行にあたり、冬のインフルエンザ以上に配慮していてくださることに感謝致します。
入所者を気づかって、個人としての生活にも、私共が考える以上の注意を払い、制限をご自身に課していてくださるのではないかとも思うと、頭が下がります。
失礼なほど簡単な葉書きでの言葉ですが、一日も早いコロナ感染症の終息を願いつつ……
職員御一同様への感謝とさせていただきます。

▲白川町内で感染者が確認された８月には
家族から温かいお便りが届きました。